

会員の書いた本

ひらく選書 「山を聴く。」 まったり登山のすすめ

著者：岸田紀雄（13・1197）

平成 2016 年 2 月 26 日第 1 刷 ブレイン・ワークス株式会社発行

新書版 142 頁 定価（本体 1200 円＋税）

「山を聴く。」からの引用

P18 春の声

・・・毎年のことだけれども、2月に入るとラジオから流れる音楽も春に関わる曲が多くなって来る。・・・久し振りにヨハン・シュトラウスの《春の声》がかかった。この曲は冒頭を聞いただけで、明るく楽しく浮き浮きした気分になって来るから不思議だ。・・・山をやるものにとっては、春はやっぱりワクワクする季節には違いない。

とはいえ、春山はそんなふわふわとした感情とは裏腹に、極めて危険な側面を持っているから油断がならない。・・・「春山を計画するときは冬山装備で」とはよく言われること・・・

P52 登山道に込められた願い

漱石の『草枕』の書き出しではないが、長い急登を強いられながら、こう考えた。・・・大概の場合モクモクと歩く登山道だけど、「最初にここにルートを開こう」と決心した人の苦勞も推し量ってみたい。・・・急登下降が散りばめられていたとしても、それはその山へ登るための最善のルートなのだ、という先人の心からの願いを頭に入れつつ登りたいものだ。

P114 乳頭山の“あわや遭難”に学ぶ

2005年3月末、日帰り山行を企画した43人のグループが消息を絶ち、翌日、予定とは正反対の登山口で発見、全員無事に保護されたという“事件”があった。・・・当日の天気予報では・・・北日本を中心に大荒れになる見込みだった。その予報にもかかわらず登山は決行され、・・・幸いなことに一行が登っている間中好天だった。・・・天候は一変し吹雪で四囲何も見えない。・・・リーダーは何を急いだのだろうか。・・・他方では、・・・パニックを引き起こさなかったのはひとえに彼の指導力の賜物だと思う。

今回の事件は決して対岸の火事ではない。貴重な教訓として、心してわれわれの山行に役立てなければならないと思う、

P130 まったり登山はいかが？

・・・言葉が過ぎるかもしれないが、中高年登山というと、皆古い先が短い、・・・

ケガや事故が多いというどこか負の連鎖のイメージを持たれやすい・・・

ここで一つ提案させていただきたい。本来人生経験豊かな人ばかりのはずなのだから、これからは山を味わい尽くす“まったり登山”を心掛けてみてはいかがだろうか。・・・・・・